

「連携」で都心に生態系、ふくしまブランド守る

有限会社 仲田種苗園



東京工業大附属図書館(東京都目黒区)に設置され、花を咲かせた「野の花マット」。環境省が定めた「生物多様性保全のための国土区分」に基づき、地域本来の植物のみを集めている

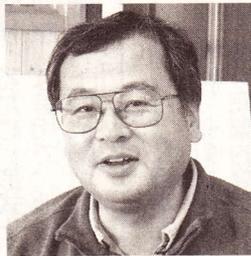
福島県石川町の仲田種苗園(仲田茂司社長)が新たな一歩を踏み出した。同社が手掛ける「野の花マット」の技術を生かし、都心の生物多様性を復元する試みを始めた。

「野の花マット」は十数種類の草花をマット状に寄せ植えした商品。芝生のように敷き詰めることで、地域本来の植生を手軽に再現できる。首都圏のビルの屋上やベランダの緑化で実績を積んできた。

同社は首都圏に顧客基盤を持つ環境ビジネスエージェンシー(東京都)と連携して販売力を強化。画期的な壁面緑化技術に取り組むイマイタダオ事務所(兵庫県)と共同により、高度な緑化システムを開発し、

大都市にチョウや鳥の集まる生態系の復元に取り組む。この計画が高く評価され、国の農商工連携事業に認定された。仲田社長は「中小機構から多くの助言をもらった」と認定までの道のりを振り返る。アドバイザーの一つ一つが高レベルで的確。計画も次第に洗練されていった。私自身、一農家から企業経営者に仲間入りした」

「二人の農家や一つの企業では不可能なことを可能にするのが農商工連携」と語る仲田社長。認定を通じ、地元農家や企業の連携が地域づくりの起爆剤になると感じた。



仲田 茂司社長

機構の担当者を引き、次の農商工連携を掘り起こすための勉強会も開いている。

ふくしまの自然を愛し、在来種にこだわり生産してきた同社。ふくしまブランドを守るため、中小機構の支援をバネに必死に活動を続けている。